

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)		授業科目	国語 I
科目基礎情報						
科目番号	0001		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	情報工学科		対象学年	1		
開設期	通年		週時間数	3		
教科書/教材	『国語総合 改訂版』（現代文編・古典編）（大修館書店） / 「新国語便覧（新版四訂）」（第一学習社）、「常用漢字ダブルクリア」（尚文出版）、「新精選 古典文法 改訂版」（東京書籍） ※国語辞典を1冊準備しておくとうよい（電子辞書でも可）					
担当教員	武田 充啓,松井 真希子					
到達目標						
1.高等学校1年生相当の漢字力や語彙力を身につけている。 2.評論文について、筆者の意見を的確に把握し、正確に要約することができる。また、筆者の意見に対して、自身の意見を、根拠をもって表現することができる。 3.小説について、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。また、自身の経験にひきつけて感想を述べるることができる。 4.日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。 5.文語の基本的なきまり、漢文訓読の基本的なきまりを身につけている。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	話し手の指示や意見を的確に聞き取り、正確にまとめることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、適切な声の大きさ、明瞭な発音で、述べたり読んだりすることができる。		話し手の指示や意見を的確に聞き取ることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、述べたり音読したりすることができる。		話し手の指示や意見を聞くことができない。 聞き手を意識せずに、自身の意見や与えられた文章を、声の大きさや発音に気を留めずに述べたり音読したりする。もしくは活動時に発言しない。	
評価項目2	書物や文献に対して、批判的に読解し、自身の意見を抱き、正確に表現することができる。		書物や文献に対して、自身の意見を抱き、表現しようと工夫することができる。		書物や文献に対して、自身の意見を表現することができない、もしくは文章表現として著しい誤りがある。	
評価項目3	初見の文章について、内容を理解しながらスムーズに音読することができる。		初見の文章について、句としてのまとまりを意識しながら音読することができる。		初見の文章について、単語ごとに細切れに音読する。	
評価項目4	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を即座に調べ、習得することができる。 高校在学程度の語彙力（漢検3級～準2級程度）を有しており、適切に運用することができる。		言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を自主的に調べることができる。 中学卒業程度の語彙力（漢検3級程度）を有しており、適切に運用することができる。		言葉に関心がなく、初見の語であっても自主的に調べることがない。 小学卒業程度の語彙力（漢検5～4級程度）を有しており、高校在学程度の語彙を誤って運用することがある。	
評価項目5	日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。		日本の伝統的な言語文化について、興味・関心を持つことができる。		日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができない。	
評価項目6	文語の基本的なきまり、漢文訓読の基本的なきまりを身につけている。		文語の基本的なきまり、漢文訓読の基本的なきまりについて、調べることができる。		文語の基本的なきまり、漢文訓読の基本的なきまりについて、全く理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
準学士課程（本科1～5年）学習教育目標 （3）						
教育方法等						
概要	他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。					
授業の進め方・方法	高等学校第1学年に相当する学力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読んで多角的な思考力を養っていく。また学生同士で「話し合う」、考えた内容をノートや文章に自分で「まとめる」ことを通して自分の考えを深める。 現代文は週2時間を通年で行い、古典（古文・漢文）は週2時間を前期または後期の半期で行う。					
注意点	関連科目 国語の運用能力は、人文科学や社会科学系の科目だけでなく、自然科学系科目の科目の基礎ともなる。 学習指針 まず授業を「聞く」こと、自分の考えを「書く」こと。授業中の発問を自分で考え、簡単な言葉でもよいので文字にし、答えにたどり着く過程を残した「わかる」ノートを作る。人の発言を聞くことも重要である。漢字や語句についての課題があれば必ずませておく。配付されたプリントは各自でよく読んでおくこと。2週間に1回、漢字テストをする。 。自己学習（事前学習及び事後展開学習） 事前学習としては、教科書に目を通し、分からない語句や漢字は各自で調べること。また、予習プリントを済ませておくこと。日頃から教科書以外の本や新聞を積極的に読み、身近なことから問題意識を持っておくこと。 事後展開学習としては、出された課題や復習プリントに取り組み、期限までに提出すること。授業で学んだことを身近なことから結びつけて考え直してみる。こと。 古典については毎時間、予習をすること。教科書の本文を写し、大事な注なども写しておく。そして、意味や訳のわからなかったところを授業で補い、ノートに記入するようにするとよい。					
学修単位の履修上の注意						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	現代文 ガイダンス 評論「ヘンデルと力士」①		本科目の目的や授業の進め方を理解する。 現代文 評論の構成を把握する。	
		2週	現代文 評論「ヘンデルと力士」②		現代文 内容を正しく理解する。	
		3週	現代文 評論「ヘンデルと力士」③		現代文 要旨をまとめる。	
		4週	現代文 小説「羅生門」①		現代文 全体構成を把握する。	
		5週	現代文 小説「羅生門」②		現代文 表現や技巧に注意して読む。	

後期		6週	現代文 小説「羅生門」③	現代文 主人公の心情とその推移を場面展開に即して読み取る。
		7週	現代文 小説「羅生門」④	現代文 主題について考え、まとめる。
		8週	前期中間試験	現代文 授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
	2ndQ	9週	現代文 試験返却 評論「空気を読む」①	解説をふまえて解答を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文 全体構成を把握する。
		10週	現代文 評論「空気を読む」②	現代文 内容を正しく理解する。
		11週	現代文 評論「空気を読む」③	現代文 要旨をまとめる。
		12週	現代文 小説「富嶽百景」①	現代文 全体構成を把握する。
		13週	現代文 小説「富嶽百景」②	現代文 主人公の心情を富士との対応関係に注意しながら読み取る。
		14週	現代文 小説「富嶽百景」③	現代文 主題について考え、まとめる。
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解説	解説をふまえて解答を見直し、理解が不十分な点を解消する。
	3rdQ	1週	現代文 評論「『知る』ことと『わかる』こと」① 古典 ガイダンス 『論語』『学問』①	現代文 全体構成を把握する。 古典 書き下しのルールを確認する。
		2週	現代文 評論「『知る』ことと『わかる』こと」② 古典 『論語』『学問』②	現代文 内容を正しく理解する。 古典 『論語』で言われる学がことの意義を理解した上で、自分なりの考えを持つ。
		3週	現代文 評論「『知る』ことと『わかる』こと」③ 古典 『徒然草』『高名の木登り』①	現代文 要旨をまとめる。 古典 用言の活用を理解する。
		4週	現代文 小説「城の崎にて」① 古典 『徒然草』『高名の木登り』②	現代文 全体構成を把握する。 古典 本文の内容を理解し、作者が伝えようとしている教訓を読み取る。
		5週	現代文 小説「城の崎にて」② 古典 『竹取物語』『なよ竹のかぐや姫』①	現代文 主人公の心情とその推移を小動物との関わり注意到意しながら読み取る。 古典 用言を復習しながら、基本的な文法事項を学ぶ。
		6週	現代文 小説「城の崎にて」③ 古典 『竹取物語』『なよ竹のかぐや姫』②	現代文 主題について考え、まとめる。 古典 重要な助動詞を学ぶ。本文の内容を正しく理解する。
		7週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。 古典 本文の内容を正しく理解する。
		8週	現代文 評論「言葉についての新しい認識」① 古典 『柳河東集』『黔之驢』①	解説をふまえて解答を見直し、理解が不十分な点を解消する。 現代文 全体構成を把握する。 古典 再読文字を理解し、正しく書き下し文にできる。
	4thQ	9週	現代文 評論「言葉についての新しい認識」② 古典 『柳河東集』『黔之驢』②	現代文 内容を正しく理解する。 古典 本文の内容を理解し、作者が伝えようとしている教訓を読み取る。
		10週	現代文 評論「言葉についての新しい認識」③ 古典 『伊勢物語』『あづま下り』①	現代文 要旨をまとめる。 古典 『伊勢物語』について知識を身につける。用言と助動詞の復習をする。
		11週	現代文 小説「鏡」① 古典 『伊勢物語』『あづま下り』②	現代文 全体構成を把握する。 古典 和歌の修辞を学びながら、作中の和歌を解釈する。
		12週	現代文 小説「鏡」② 古典 『伊勢物語』『あづま下り』③	現代文 場面や心情の変化を表現に即して読む。 古典 登場人物の心情と和歌を関連付けながら内容を理解する。
		13週	現代文 小説「鏡」③ 古典 『玉勝間』①	現代文 読者を楽しませる作者の工夫を読み取り、小説を味わう。 古典 古文における評論文の論理の展開を理解する。
		14週	現代文 小説「鏡」④ 古典 『玉勝間』②	現代文 人間の生き方についての考えを深める。 古典 筆者の主張を正確に理解する。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解説	解説をふまえて解答を見直し、理解が不十分な点を解消する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前1,前2,前3,前9,前10,前11,後1,後2,後3,後8,後9,後10
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	2	前1,前2,前3,前9,前10,前11,後1,後2,後3,後8,後9,後10

			文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べることができる。	2	前4,前5,前6,前7,前11,前12,前13,前14,後4,後5,後6,後11,後12,後13,後14
			常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	前3,前9,前10,前11,前12,前13,前14,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
			実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	前3,前11,後3,後10
			報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	2	前3,前11,後3,後10
			収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	2	前1,前2,前9,前10,後1,後2,後8,後9
			報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	2	前2,前10,後2,後9
			作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	2	前3,前11,後3,後10
			課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	2	前3,前7,前9,前11,前14,後6,後10,後14
			相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	2	前3,前7,前9,前11,前14,後6,後10,後14

				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	2	前2,前3,前4,前5,前6,前9,前10,前11,前12,前13,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
--	--	--	--	---	---	---

評価割合						
	試験	課題	小テスト	その他	合計	
総合評価割合	68	22	10	0	100	
現代文能力	48	12	10	0	70	
古典能力	20	10	0	0	30	